

【現状・課題・目的】

地域における背景として、

- ①路網未整備により未間伐林分が多い
- ②搬出間伐の出来る事業者が少ない
- ③集約化等が進まず間伐コストが高い

等の理由により搬出間伐が進んでいない現状にあることから、低コストで効率的な列状間伐の理解を深め、搬出間伐が定着することを目的に取り組みを進める。

【これまでの取り組みや成果】

民有林での搬出間伐を促進するため、国有林での列状間伐箇所において、地域林業関係者を集め毎年現地検討会を開催し、低コストで行える列状間伐への理解を深めるとともに、集約化に対する課題を地域の関係者と共有してきた。

結果、檜山地域では、安定的に列状間伐の実行が行われるようになってきており一定の成果が出ていると思われる。一方、当署管内の渡島西部地区では未だ実施率が低い実態もあり今後重点的に取り組む必要がある。

【平成29年度の取組結果・成果】

① 列状（搬出）間伐の普及

国有林の列状間伐箇所において、列状間伐のさらなる理解を深め、民有林において列状間伐（搬出間伐）が積極的に実施されることを目的とし、道有林関係者と連携し現地検討会を開催した。

現地検討会では、列状間伐の効率性や安全性・経年変化の状況からみる間伐効果等を提示し、民有林関係者の意識を高める取り組みを進め普及促進を図った。



国有林での現地検討会

列状間伐の経年変化比較



② 森林情報の効率的な把握

ドローンを活用し、今年度列状間伐を実行した箇所の伐採前と伐採後の状況を撮影し、森林作業道の配置状況、伐採列の方向、列状間伐後の樹幹密度変化等の間伐効果の見える化に取り組み、現地検討会でのツールとしてさらなる列状間伐の理解・普及を図った。

また、民有林関係者に対し、ドローンによる森林情報の把握等、技術情報を発信するとともに、ドローンの操作技術向上・普及促進を目指した研修会を実施し理解が深まった。



ドローン研修会

【今年度の取り組みで目指すところ】

低コストでより安全性が高い列状間伐（搬出間伐）の普及促進を目指し、列状間伐実施率の低い地域での取り組みを重点的に進め、年々増加傾向にある民有林での列状間伐実績のさらなる向上、地域間格差の解消を目指す。

また、今まで列状間伐を実施したことのない地域においては、積極的に働きかけを行い、列状間伐実績の向上を目指す。



間伐実施後の空撮写真

【今後の目標】

地域にあった作業システムを構築し、生産性の向上（コスト削減）による山元への利益の還元、労働安全性のさらなる向上を図り、民有林における未間伐箇所の解消による地元材の生産力を高める。